過疎（中学校・地理）

（　　）中学校（　）年（　）組
氏名（　　）

深掘り 鹿児島

車の燃費向上、X普及
給油所の廃業進む

10年で16%減 改修は重荷、高齢化で拍車

自動車の燃費向上や電気自動車（EV）の普及により、鹿児島県内でガソリンスタンド（給油所）の廃業が進んでいる。経済産業省の統計を見ると、全国の給油所はここ30年で約半数にまで減った。公共交通機関が少なく自家用車が手放せない地方をはじめ、冬場の灯油配達や災害時のエネルギー確保など、給油所は暮らしと直結している。鹿児島の減少率は全国より緩やかなものの、個人経営の多さから今後、急激に減少する恐れもある。

4月上旬、鹿児島市春山町の山あいを車で走ると、道路脇の「閉店」の張り紙が目に入った。看板は下ろされているが、自動洗車機や給油ホースはそのまま残り、一目で給油所だったと分かる。近くの主婦山下りえさん(68)は「いつも使っていたが突然閉まった。今は少し離れた系列店で入れるが不便」とこぼす。

運営していた南国殖産カーライフ事業部によると、昨年8月、約30年間営業したこの店舗を閉めた。担当者は「車の燃費が飛躍的に伸び、反比例するかのようにガソリンが売れなくなった。閉店は自然な流れだった」と説明する。

理由はそれだけではない。給油所は地下のタンクからガソリンをくみ上げて給油する仕組み。定期的なメンテナンスはもちろん、タンクの設置から40年経過すると、腐食防止のための改修が義務付けられる。一般的な1万リットルのタンク5基だと1千万円以上かかることもあり、改修を前に廃業を選ぶ事業者も多いという。

県内で大手とされる同社も、ここ5年間で94店舗のうち10店舗を閉めた。担当者は「近隣の給油所に集約する形で、引き続き地域への役割は果たしていく」と力を込めた。

■瀬戸際

資源エネルギー庁によると、24年4月時点の給油所は全国で2万7414カ所。ピークだった1995年3月の6万421カ所から毎年減り続ける。この10年間では6096カ所（18・2%）の減。鹿児島県でも903カ所から145カ所（16・1%）減った。

同庁は、給油所が3カ所以下の自治体を「給油所過疎地」と定義しており、全国では392市町村区が該当する。鹿児島県では、三島、十島、宇検、大和の離島4村が給油所過疎地に位置付けられる。ただ、自動車1万台当たりの給油所数は7・3カ所（24年3月末）と全国1位の多さだ。

とはいえ「安泰というわけではない」と話すのは、県石油販売業協同組合の高田英司専務理事。東京や大阪の都市部と比べ、鹿児島県内では家族や夫婦で経営する小規模給油所が多い。高田専務理事は『地域のため』と気力だけで続けているスタンドもある。担い手の高齢化も進み、今後数年間で閉店が相次ぐ可能性もある」と危惧する。

■後継者

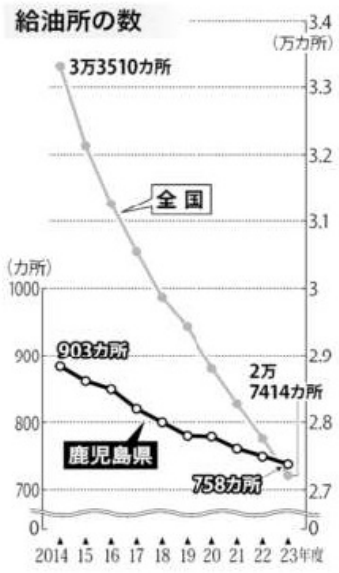
「息子に継がせたくない。経済面も体力面も厳しいことは分かっているから」

60年以上、地域から親しまれてきた鹿児島市郊外の給油所。オーナーの男性(72)は父親から引き継ぎ、給油から車の窓拭き、灯油の配達といった「フルサービス」を信条に妻と二人三脚で切り盛りしてきた。

風向きが変わったのは数年前。近所に価格の安いセルフ式給油所ができ、客足は遠のいた。住宅もオール電化が進み、灯油の販売量も減少の一途をたどる。ガソリン代の高騰が続く中、少しでも安い方を選ぶ心情も分かる。男性は自身の代での店じまいを決めている。ただ「灯油の配達まで手がける店は少ない。需要が減ったとはいえ、車がない世帯は困るかもしれない」と葛藤もある。

離島を持つ鹿児島は、全国でもガソリンが高い県に挙げられる。「小規模事業者が食べていくには価格転嫁しかない。給油所は一種の公的役割も担っているのに、民間任せでいいのか」と高田専務理事。行政を巻き込んだ議論の必要性を感じている。

昨夏閉店したガソリンスタンド。給油ホースや洗車施設がそのまま残されていた
＝4月上旬、鹿児島市春山町



2025年4月20日付7面

©南日本新聞社　教育目的以外の無断転載　複製および頒布はます

南日本新聞社

＊習っていない漢字のよみがなや難しい用字用語の解説

廃業(はい･ぎょう)＝商売などをやめること。　恐(おそ)れ	瀬戸際(せ･と･ぎわ)＝うまくいくか、失敗するかの分かれ目。
閉店(へい･てん)　突然(とつ･ぜん)　系列(けい･れつ)	過疎地(か･そ･ち)＝人や施設などがまばらで少ない地域。
飛躍的(ひ･やく･てき)＝物事の発展、進み具合が速いこと。	該当(がい･とう)＝ある決まりや条件に当てはまること。
腐食(ふ･しょく)＝さびたり、くさったりして形がくずれること。	安泰(あん･たい)＝何事もなく、心配がないこと。
一般的(いっ･ぱん･てき)＝広く行き渡っている様子。物事を	後継者(こう･けい･しゃ)＝後をつぐ人。　窓拭(まど･ふ)き
まとめて言う様子。　近隣(きん･りん)＝隣(とな)り近所	郊外(こう･がい)＝都市の周りの、まだ自然が残っている所。
二人三脚(に･にん･さん･きゃく)＝二人が横に並び、内側の足を	需要(じゅ･よう)＝商品を求めること。　葛藤(かっ･とう)＝心の
しばって走る競技。二人で協力して物事に当たること。	中に相反する欲求や考えがあって、その選択に迷う状態。
切(き)り盛(も)り　一途(いっ･と)＝一筋の道。一つの方向。	価格転嫁(か･かく･てん･か)＝原料費や労務費などのコスト
高騰(こう･とう)＝物の値段が急に上がること。	上昇分を製品やサービスの価格に上乗せすること。

【問1】　見出しの空欄Xに当てはまる言葉を次のア～ウから選びましょう。　（　ウ　）

ア　AD(自動運転)進化　　イ　ETC(電子料金収受システム)増加　　ウ　EV(電気自動車)普及

【問2】　給油所が暮らしと直結しているのはなぜですか。例を一つあげて答えましょう。

公共交通機関が少なく自家用車が手放せない地方では，給油所が欠かせないから
給油所が冬場に灯油を配達する役割を担っているから
給油所は，災害時のエネルギーを確保する場所にもなるから　　～などから一つあげる

【問3】給油所(ガソリンスタンド)の廃業が進む要因について，記事中からは読み取れないものを次のア～オから一つ選びましょう。　（　ウ　）

ア　車の燃費が飛躍的に伸びてガソリンが売れなくなったため
イ　給油所の地下タンクのメンテナンスや改修に費用がかかるため
ウ　地球温暖化が進み，ガソリンの使用を控える人が増えたため
エ　給油所の担い手の高齢化が進んでいるため
オ　価格の安いセルフ式給油所ができ，客足が遠のいたため

【問4】　資源エネルギー庁は，給油所が3カ所以下の自治体を何と定義していますか。記事中から抜き出して答えましょう。

（　給油所過疎地　）

【調べてみよう】　あなたの住む地域の給油所数の変化について調べてみよう。

©南日本新聞社　教育目的以外の無断転載　複製および頒布はます